

## 北海道網走・能取岬アイスクライミング

報告：西山 哲明

◎期日：2022年2月8～10日

◎メンバー：西山、他友人3名（会員外）

### ◆2月8日（火） 快晴◆

女満別空港には午後1時に到着した。最初はもう一本早い便の予定だったがコロナの影響で欠航したため、後の便となってしまった。網走市に向かってレンタカーを走らせていると網走湖でワカサギ釣りをしているテントが見えてきた。網走の街に入り岬に近くなってくると雪がだんだんと深くなってきた。

女満別空港ではアスファルトが見えた路面だったが、ここまでくると流石に真っ白になっていた。ただ道幅も広くFR車でも問題なく走れる。そろそろかなと思っていると車が一台路駐している。おそらく仲間のレンタカーだろう。そばに駐車して装備をつけザックを背負い込む。荷物は総重量29キロほどあり結構重い。機内持ち込み10キロ、預けが20キロまでが無料だったがこれでもかなり減らしてギリギリとなっている。着替え以外は全てクライミングギア、ロープもハーフロープとはいえ2本なので肩に食い込む重さだ。

ただアプローチは短く10分もかからず海岸に出られた。海岸を見渡す限りでは、流氷は接岸されていなかったが、よくよく沖の方を見ると白い流氷が見えた。程なくメンバーがいるクジラの滝に着いた。

早速取り付くことにした、ビレイはT氏をお願いをする。“クジラの滝”は高さ40mあり見た目は緩い傾斜がついているように感じたが、実際に取り付くとほぼヴァーチカルである。1本目としてはかなり厳しい。アックスもクランポンも上手く効かない、今シーズンは初めてのアイスクライミングということもあるが、あまりにも登れない、半分ほど登ってから断念をして、トップロープを使わせてもらうことにした。



（クジラの滝を登る）

トップロープで登ると多少は余裕が出て、ムーブはできたがやはりアックスもクランポンも効きが悪い。きっと歯が十分とがれていないのだろうと思う、宿に戻ったら研ぎ直すしかない。周りも暗くなってきたのであまり無理はせず帰ることにした。

宿への帰り道コンビニで酒とつまみを買う。ひと風呂浴びて早速酒を飲み始める。今回のメンバーは自分を含めて4人となった、以前所属していた山岳会のT氏、横須賀のK会所属でリーダーのG氏、紅一点のYさんである。T氏は今回が初めてのアイスクライミングであるが、岩登りでは私の恩師である、ただ師匠と呼ぶと恥ずかしいのか嫌がるので、師匠とは呼ばないようにしている。

皆で酒を飲みながらアイスクライミング談義になる。スクリューの打ち込み方、アックスの振り方、アックスの研ぎ方になった時やっと思い出して、アックスとクランポンを研ぎ始めることにした。みるとやはり歯がかなり鈍っている。これじゃあ無理だなあと思いつけてきた金ヤスリでせっせと研ぐことに。それを見ていたYさんも「あたしも研ぎたい！」となり一緒に研ぎ始めた。Yさんは、なぜかヤスリで研ぐのがいたく楽しいらしく酒も飲まずに研いでいる。自分は酒を飲みながら研ぐ。後の二人はぐびぐびと酒を交わしている。きっと明日は登れることだろう。

## ◆2月9日(水) 快晴◆

翌日は2パーティに分かれることにした。G氏とYさんは岬の先にあるオジロの滝にT氏と自分は反対の“オコジョの滝”に向かう。能取岬は9つの氷柱ができるはずだが、今年は4本しかできていない。おそらく寒すぎたせいだろう、氷柱の出来方は主に2通りあり、ひとつは水の滝がそのまま凍って氷柱になる場合とツララが昼と夜との寒暖差で溶けたり凍ったりしてできる場合があるが、今年のように寒すぎるとツララが十分に育たないと聞いたことがある。

オコジョの滝に着くと、パッとみた感じではかなり立っている、昨日よりなんかきつそうな感じはするが、とりあえずリードをする。実際に登ってみると思ったほどではなかった。きっと昨夜に頑張っただけで研いだこともあるだろう、よく刺さる。落口は氷が薄くなっており、水の流れる音が聞こえた。破壊しないように慎重に登り終えて、大きな木に終了点を作る。T氏もトプロープで登ってもらおう。二人で登り終えると11時を回っていた。日差しが差し始めて、暖かくなったので氷も溶け始めており、ポタポタと水が溶けてきたので“オジロの滝”に移動することにした。

海岸を岬に向かって歩いていくと、先に行っているG氏とYさんに合流した。途中にある、“3本の滝”にいたが、これはツララの氷柱であり育っておらず、みているだけだったようだ。二人はそのまま昨日のクジラの滝に行くようだったので我々は“オジロの滝”にそのまま向かった。“オジロの滝”は幅が広く50mほど高さは40mある。

登る前にまずは昼飯を食べる、岬近くなると流氷が漂着しており海岸は白いデコボコになっている。流氷にどうしても乗ってみたいくなり、歩いてみる。海に向かって歩いて行き、浮いている流氷に乗ってみる、ふかふかと浮いた流氷に乗ることができた。もしかしたらクリオネがいるのではないかと思ひ手製の網を持ってきたが、残念ながらいなかった。

二人して童心に戻りキャッキヤ言いながら遊んでしまった。

オジロ滝に戻り気を取り直して登ることに。“オコジョの滝”に比べて緩い傾斜があり然程難しくなかった。終了点は大きな氷柱とスクリュウが差してあったので利用したが、これはG氏が作ってくれたようだった。もう一本やりたかったところだったが、暗くなってきたので残念だが“オジロの滝”を後にした。

私は今晚が最後なので、居酒屋にでも飲みに行きたいところだったが、コロナの影響もあり夜は20時以降酒の提供はしていない。代わりに網走市内のスーパーを探して、刺身やらなんから買いこむことにした。さて、酒を飲んで何かみんなで楽しく話したような気がするが、この夜はあまり記憶がない。そんなに飲んだ記憶はないのだが・・・。

今回の山行はT氏とLINEでやりとりをしていると、「北海道にアイスクライミングに行くんだよ」と聞いて、居ても立っても居られず、是非自分も参加させてくださいと懇願した。直前のお願いにも関わらず、メンバーに加えてくれた3人、再手配をしていただいたリーダーのG氏には感謝の念が絶えない。おかげで最高のクライミングができました。



(オジロの滝でまずは昼食を摂る)



(ふかふかと浮かぶ流氷に乗ってみた)